



Evangelism
Explosion
Japan

一般社団法人 EE JAPAN 季刊誌 (年3回／4月・8月・12月発行)

2025

8

Vol.13

行きて伝えよ

信徒伝道者の発掘・育成・増殖のために

福音を語れるようになった日 —— EE が開いた福音の扉

高橋 裕子

EE Japan理事長、京都インターナショナルチャーチ伝道師、
京都大学医学部特任教授、京都大学病院禁煙外来担当医、
日本禁煙学会理事長



私がEEを学ばせていただいたのは、クリスチャンとなつてまだ1年にもならない時のことでした。2014年2月、神さまは勤務先の大学構内を歩いていた私に突然に言葉をくださり、それまでの「カル

ト対策委員長」の名のもとに学内の信仰ある人たちを排除する立場から、「だれかクリスチャンはいませんか、いっしょに祈りましょう」と呼びかけるものへと変えてくださいました。私はすぐに地元の教会に行きました。

すべてが新しく、またすべてが喜びでした。まわりの人にもその喜びを伝えたいと思い、会う人ごとに「ねえ、聞いて。すごいよ」と熱く感動を話しました。

結果はどうだったか。みなさまご想像のとおりです。「そう、よかったね」ならまだしも、「あんた、大丈夫?」「気でも狂ったの?」と言われる始末。そうです、語ろうとすればするほど、自分の中で熱意だけが空回りして、自分で何を伝えたらいいのかもわからない状態でした。

ところが、そんな私を神さまはEEに導いてくださいました。ふとしたことでKICを訪問したことがきっかけで、「EE 13週クリニック」を知りました。すぐに申し込みました。そして山中知義牧師のEE 13週クリニックが始まりました。

びっくりしました。福音が、伝わる、のです。今までどんなに一生懸命に伝えても伝わらないと思っていたのですが、伝え方が間違っていたことを知りました。

EEでは、語るべきポイントは福音アウトラインとして整えられています。告白しますが、私がEE 13週を受講させていただいたときには、聖書の中のマルコとマタイの順番さえわかっていない、そんな超ベビークリスチャンでした。そんな私が、間違いのない福音を、間違いのない順序で語れるようになりました。

ひとつには、よくできたテキストが提供されていたということがあります。このテキストは、最初アメリカのEEインターナショナルの本部でつくられたものを、山中ナショナルディレクターが日本語に翻訳くださったと聞いていますが、そのテキストに沿って学ぶだけで、福音伝道に必要な聖書箇所まですべて学び、語ることができるように練り上げられ、構築されています。

福音を語ろうとするといろいろな妨害や反論を受けてしまうことや、途中で脱線してしまって福音までゆきつかないことがあります。福音アウトラインではそうした妨害や反論も避けて、まっすぐに福音を語ることができるようになっていきます。まさに、それまでいくら耕しても鋤も入らない土地を前にため息をついていたのが、トラクターが与えられ、楽々と耕すことができるようになった、という感じでした。

EEのもうひとつの特徴に、OJTがあります。机上で学んだ福音プレゼンテーションを、実際に誰かに語るというものです。多くの場合は、先輩が伴走し、足りないところを補います。

個人伝道で必要とされることは、いつでも、どこでも福音を語ることができることです。これはOJTを通じて身に付きます。オンモードという言葉がありま



すが、いつも語る準備ができていて、神さまが語りなさいと言っておられるときに、間違いなく福音を語り伝えることができるように訓練されるのです。

そして、これは大きな喜びです。手元にトラクトがなくても、語ることはできるのです。

このことを神さまは私に実体験として体験させてくださったのは、EEを学んで1年後のことでした。元気だった父が嚔下性肺炎になり、入院しました。95歳の父は日ごとに状況が悪化し、1週間もしないうちに集中治療室に入るようになりました。主治医の先生から見せられた父の肺のレントゲン写真は両肺とも真っ白で、呼吸する場所はもう残っておらず、この世での命が幾ばくも無いことが見てとれました。

病院の集中治療室は、家族であっても入ることが許されない場所です。荷物を届けたいからと言って部屋に入った私の前には、苦しくて横になることができず、背中を起こした状態で、酸素吸入をしながら目を閉じている父がいました。

「今語りなさい」と神さまが背中を押してくださったことを感じました。

私は、目を閉じている父に語りかけました。私に許されている時間がいくらないことを知っていました。その短い時間で、福音を正確に伝えなければなりません。神さまはここで私にEEの福音アウトラインを語らせてくださいました。そして語り終わって父に、「お父さん、このプレゼントを、受け取りたいと思いますか」と尋ねました。

父ははっきりとうなずきました。父の閉じた目から、涙が一筋、流れ落ちました。

その8時間後に父は天に召されました。父の意識が保たれていた最後のときに、神さまがEEの福音を語らせてくださり、父がそれを受け取ったことは、残された私たちの家族にとって大きななぐさめとなりました。

父は仏教の家に生まれ大学で仏教哲学をおさめた人でした。檀家総代もつとめていました。山中牧師先生に来ていただいて話もしていただいたのですが、信仰には至らず、自分は浄土真宗だと言い続けていました。その父のたましいに、神さまが語りかけてくださり、福音を受け取らせてくださったことを感謝します。

そして実は、もうひとつのたましいを神さまはこのときの私の語りを通じてお救いくださっていました。

私が父のベッドから離れ、集中治療室を出ようとしたそのときです。集中治療室のとなりのベッドに寝ていた高齢の女性が手招きしておられるのです。私はてっきり、父に話しかけた声が大きくて迷惑だったので呼ばれたのかと思い、謝罪するつもりで隣の人のベッドに近づきました。その女性が言われました。

「私は若いころにキリスト教の教会に行っていたのですが、ずっと離れてしまっていました。今日こうして、神さまのことを聞かせてくださって、本当にありがとうございます。」

そして私の手の上に自分の手を重ねて祈ってくださいと言われました。

神さまは、私のEEの語りを用いて、父だけでなく隣のベッドの女性のたましいも、お救いくださったのです。

そのあと、多くのみなさまにEEを用いて福音を伝えさせていただいてきました。福音を伝えることは、苦難でも義務でもなく、よろこびです。嬉しいから伝えるのです。

そしてEEは、福音を伝えるようになってゴールではありません。EEのゴールは、福音を伝える人を増やす役割を目指すことです。福音を語れるだけでなく、福音を語ることでできる人たちを作るという、霊的倍増殖を神さまは望んでおられます。

私のEE 13週クリニックのセッションでは、最初の日に、神さまが私たちに望んでくださっているのは、福音を伝えるだけでなく、福音を伝える人をつくる。つまり今EEを学んでくださっているみなさまが、次なる人たちにEEを教えることなのだとお伝えしています。

教える立場になると、自分の福音プレゼンテーションが変わります。そして神さまと自分の距離が変わります。自分の小ささに気づかされ、神さまとの交わりをさらに深めるものへと変えられます。そして教えられる人たちのために、毎日祈ることが加わります。これこそ、神さまが私たちに望んでくださっていることです。

でも、教えるなんてできない、と思わないでください。先にも述べたとおり、EEにはすぐれたテキストがありますが、EEを学ぶときに用いたテキスト以外に、EEを伝えるときに用いるテキストも完備されていて、だれでもそれに沿って語りさえすれば、EEを教えることができるように整えられているのです。

「全世界に出ていって、すべての造られたものに福音を延べ伝えなさい。」(マルコ 16章 15節) とイエスさまは私たちに命じられました。

福音を語ることはよろこびです。そして神さまは福音を語ることをよろこびとできるツールを、EEとして私たちに与えてくださいました。

このEEが私たちに与えられていることを心から感謝します。どうかみなさまも私とともに、このすばらしいツールを用いて、福音を延べ伝えて参りましょう。

証し Testimony



～卒業生・在校生からの生きた証しをご紹介します～

「福音を語る者へ」

EEとの出会いは、2024年秋にあったCPI Conferenceでした。私は牧師やミニストリーに関わっていたわけではありませんでしたが、仲良くしてもらっていた宣教師家族が招待してくださったので、参加することになりました。今思えば、EEとの出会い自体が私にとって「天与の出会い」であり、一つ一つに神の御手がありました。というのも、カンファレンス自体、子どもたちの体調不良など、行くのをやめる理由が色々ありました。そんな中で、沢山の人が私のために祈ってください、「これは敵が必死に行くのを辞めさせようとしている」と気づくことができ、それほどきつと良いことが待っているのだろう、と大きな期待を抱きながら、「何がなんでも行くぞ」という思いが起こされました。

そして、カンファレンスに無事参加することができ、数あるセッションの中で、個人伝道という言葉に興味を持ち、一度EEのセッションが行われている部屋に入りましたが、もう一つの迷っていたセッションがあったので、そちらにも行ってみよう一度部屋を出ました。祈りの中で、やはり個人伝道に惹かれEEの部屋に戻ったのは、神の計らいの他ありません。あの時違う部屋に行っていたら、今の私の人生は間違いなく全く違っていたはずで。今感じている、言葉で表せないほどの喜びや伝道への情熱はなく、家族や友人を救いに導くこともできず、生ぬるいキリスト教徒でとどまっていたかもしれません。

セッションの中で、山中牧師先生が言っていた言葉が心に響き、私も同じような伝道者になりたい、と思われました。それはまるで、聖書の中でペテロとアンデレがイエスに召された時のようでした。ペテロとアンデレはイエスと呼ばれ、全てを捨てて彼に従いましたが、その時きつと自分の召しを知ったことによる喜びで満ち溢れ、他のことなどどうでも良くなったのだらうと思います。同じように、私も今まで色んなことに興味を持ってききましたが、どこかで自分の使命を果たしていないという思いがありました。EEに出会い、個人伝道こそが私の使命であると確信することができました。聖書には福音を述べ伝えるようにと書かれていることは知っていましたが、それをどのように行えば良いのか分からず、あまり実践できていませんでした。私の家族はキリスト教ではないので、救われてほしいと心から願う反面、神の素晴らしさを上手に伝える自信がありませんで

「語りたい」が「語れる」へ

京都インターナショナルチャーチ ニール・ハートネット兄

アダムは人生を心から楽しみ、毎日を最大限に生きるタイプの人です。よく笑い、怒ることは滅多になく、自分を過剰に深刻に捉えることもありません。私の家族とアダムの家族は、私が生まれるずっと前から親しい友人関係にありました。プールに行ったり、バーベキューをしたり、ただ一緒に過ごしたりと、両家で楽しい時間をたくさん共有してきました。私にとって子どもの頃は友達を作るのが難しかったのですが、アダムや彼の兄弟姉妹と会う時は、いつも本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。高校時代、私は視覚に関わる学習の課題でとても苦勞していました。アダムは、点字で読めない本を私のために読み聞かせてくれたり、難しい数学の公式を理解できるまで一つ一つ丁寧に教えてくれたりしました。私がどれだけイライラしても、アダムは決して忍耐を失うことなく、私があきらめないように励まし続けてくれました。

信仰について話すことも時折ありましたが、その頃の私はまだイエス様との歩みに真剣に向き合ってはいませんでした。20代の間は、年に1～2回会う機会があるかどうかという程度でしたが、再会するたびに、まるで時間が経っていないかのように自然に話すことができました。

中でも特に印象深かったのは、一緒にクリスマスショッピングに出かけたことです。私たちはどちらも大家族なので、全員へのプレゼントを選ぶのは毎回大変な仕事でしたが、いつも大笑いしながら楽しく買い物していました。

信仰について話す機会も少しずつ増えていきましたが、その中で私は、自分の語る内容を聖書に基づいて明確に伝える必要があると痛感しました。それは日本の方々と福音について話す中でも同じことを感じていたことです。人が福音を信じるためには、それがどのようなものを明確に理解する必要があります。イエス様が誰であり、私たちのために何をしてくださったのかを、はっきりと知る必要があるのです。そして、福音を伝える前に、その人の霊的状態について知ることでもまた大切です。

私はEEの訓練を受けるまでは、福音の全体をしっかりと説明しきることが難しく、相手が途中で混乱したり、自分の語ることを聖書で裏づけでき

した。EEは、そんな私の不安を一掃してくださいました。なぜなら、伝え方を丁寧に教えてくださったからです。

EEを学んでいく中で、一番の大きな変化は、私自身が福音の素晴らしさを再確認できたことです。今までどこかで神様の良さを味わっているにも関わらず、クリスチャンである事を周りに知られることへの恐れがありました。それは、キリスト教が一般的に「宗教」として見られており、その「宗教」に対して良くないイメージを持っている日本人が多いからです。しかし、この学びを通して改めて、神様がイエス様を通してくださったことがどれだけ素晴らしく良いお話であるのかを思い出し、福音を伝えることが相手に迷惑をかけるのではなく、むしろ伝えること自体が愛であると改めて思わされたのです。福音の素晴らしさを再確認したことにより、以前の恥ずかしさや恐れは消え、より堂々と、そして大胆に福音を伝えることが出来るようになりました。

今までどこか断片的だった私の信仰が、EEの学びを通し、私の私生活の全てにおいて福音を伝える機会を探すようになりました。以前よりも周りの人のために祈ることが増え、その結果、より意図的に、そして積極的に人に話しかけるようになりました。そんな中で、すでに沢山の証をする機会が与えられており、私の子どもやママ友、そして母にも福音を伝えることができました。誰かをイエス様に導くことができた時の喜びに勝るものはありません。

EEを学び始めてまだ半年も経っていないにも関わらず、今までの約20年間のクリスチャン生活からは想像できないほどの伝道の機会が与えられ、神のみこころを生きる喜びと共に日々過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。EEを通して、私は単に伝道の仕方を学ぶことができると期待していましたが、神様は、私の想像をはるかに超えて私自身の信仰生活を全く新しいものにしてくださいました。私の目を開き、周りの人々のニーズにより敏感に気付けるようにしてくださいました。また、私の教会生活においても沢山の変化をもたらしてくださり、教会の体の一部として働く喜びに日々驚かされています。

ぜひこの祝福を皆さんにも味わってほしいと願っています。神様は良いお方です。EEを通して、さらに沢山の人が福音を聞くことができ、救いがもたらされますように。

なかったりという課題がありました。

EEでは、福音の核心部分は人の骨格、聖書箇所は肉、そして証しや例え話は皮膚や顔にあたる、と教えられました。そして、それら三つをバランスよく用いることで、力強い福音プレゼンテーションができることを学びました。

また、例え話や説明は、自分自身の言葉で、聖霊の導きに従って柔軟に工夫することが勧められたことも感謝でした。私はアダムのことを長年よく知っていたので、彼の人生経験に合うように例え話を少しアレンジしました。ある指導者の方からは、罪の深刻さを伝えるためにもっとシンプルな聖句を使ってはどうかというアドバイスももらいました。

このように、EEの方法は型にはめるのではなく、相手の背景に応じて柔軟に適用できるという点がとても素晴らしいと感じました。大切なのは、福音の核心を外さず、できるだけ明確に伝えるということです。

私は「たとえすぐに信じなくても、心に残る福音を語りたい」とずっと願ってきました。だからこそ、昨年秋にEEのクラスで福音を学ぶチャンスを得た時、迷わず参加しました。

ちょうどその頃、京都インターナショナルチャーチで証しを語る機会も与えられました。妻がその様子をFacebookに投稿してくれたのですが、それをアダムが見て、とても喜んでくれました。神様が私に「今こそアダムに福音を伝えなさい」と導いておられることが明確にわかりました。

そして今年の4月初め、ついに彼と福音をじっくり語る機会が与えられました。話が進むにつれ、彼の中でパズルのピースがびたりと揃っていくように、彼はすぐに喜んでイエス様を主と救い主として信じました。

それ以来、私たちは定期的に連絡を取り合っていますが、彼のうちに新たな喜びと平安があることがはっきりと感じられます。彼は職場でも信仰について語っており、すでに信仰に堅く立つ教会の交わりも見つけました。

これから彼を通して神様がなされる御業が本当に楽しみです。ぜひ皆さんも、新しく神の家族に加えられたアダムとそのご家族のために、お祈りください。

コラム Column

「個人伝道は、今も有効です」

EE国際本部総裁 John Sorensen

数年前のことです。ある一人の牧師と出会いました。彼は私にこう言いました。

「いまの時代、個人伝道なんてもう通用しません。時代がそれを許さないんです。他人に話しかけることすら難しいのです。」

皆さん、この牧師がどこの国の方かご存知でしょうか。彼はアフリカ南部の国、ザンビアの牧師でした。こうした言葉は、実は世界各地で耳にします。現代文化や人々の価値観を理由に、福音を語ることに希望を見いだせないという声です。「時代は変わった」、「人々の心が閉じている」、「ポストモダニズム時代の方法ではない」。どれも、私たちの耳に馴染みのある言葉ではないでしょうか。

けれど私は、その牧師にこう提案しました。

「あなたの家の近くで行われるEEの伝道訓練会に、参加してみませんか。ご自分の考えが本当に正しいのかどうか実際に試してみたいかがでしょう。」

彼は受講を決意し、その訓練期間中、234人に福音を語り伝えました。そして、そのうち何と158人がイエス・キリストを救い主として受け入れ、救いにあずかったのです。

この牧師は、自分自身でこの結果に驚きました。自らが抱いていた「思い込み」が、事実に基づくものではなかったことを知ったからです。そして何よりも、福音を語る喜びが再燃するのを体験したからです。

私たちの国にも、同じような恵みが必要ではないでしょうか。個人伝道は、今もなお有効です。主イエス・キリストの福音は、時代を超え、人の心を砕き、救いをもたらす神の力です。人々は、私たちが思っている以上に、福音の「良い知らせ」を求めているのです。

ですから、私たちは語り続けましょう。大胆に、愛をもって、希望をもって——。



EEのクラスから



福音と「返報性の原理」

——「タダで受け取る」という難しさに向き合う

EE Japan 代表 山中 知義

日本人の心には、「恩を受けたら返すべきだ」といった価値観が深く根付いています。「お中元」を受け取ったら、直ちに「お歳暮をどうしようか?」といった具合に。心理学で「返報性の原理」と呼ばれるこの傾向は、他者との調和を重んじる文化の中で育まれた美德です。しかし、この美德が、福音を受け取るうえでの障壁になることがあります。

イエス・キリストの救いは、ただ恵みによって、無償で与えられます(エペソ2:8)。しかし、これに対し「赤の他人様に、こんなことをしてもらふ所以がない」といった強い遠慮心や、「タダほど高いものはない」といった猜疑心を覚える人は少なくありません。

では、どうすればこの壁を乗り越えられるのでしょうか。それは、神様の側の「受け取って欲しい」という誠実な願いを伝えることです。「他意」はないということを理解してもらわねばなりません。福音とは、「赦されたい私たちのストーリー」ではなく、「赦したい神様のストーリー」なのです。その結果、人は「これほどにまで私を愛して下さっているのであれば、受け取らないのは申し訳ない」という思いに至る

かもしれません。しかしここは丁寧に語る必要があります。「愛の押し付け」となってはなりません。また「義理で受け取る」という姿勢も望ましくありません。イエスの愛とは「見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている」(黙示録3:20)とあるように、戸を叩きつつも、当人の意思による応答を待つ愛なのです。

しかし神様の愛と救霊の情熱は、対象者に理解されるべきです。聖霊様のお知恵を祈りつつ、言葉を丁寧に選びながら「あなたを救いたい!」という神様の真心を対象者に伝えてください。

返報性の原理



Essay エッセイ

「その日、語る者であるために」

EE Japan 代表 山中 知義

平和な時代、飽食の時代では、人の心は頑なで無関心です。しかし、未曾有の試練の中では、誰の心も打ち砕かれます。その日が来れば、ここ日本でも、人々は群れをなして福音の語られる場所に押し寄せることでしょう。

だからこそ、「嵐の前に」、私たちは福音を語ることの出来る者へと整えて頂きましょう。その日、クリスチャンでありながら「何を語って良いか分からない」という状態に陥らないために。

そして「嵐のただ中で」、恐怖に打ち震える人々のために、愛する者の死に打ちひしがれる人々のために、わかりやすく、心に届くように、福音を宣べ伝える訓練を今から始めようではありませんか。

そして「嵐が過ぎ去ったとき」、もしあなたがまだ生きていたならば、あなたにはこれまで以上に福音を力強く宣べ伝え、いよいよ神の前に立つ日のために、神との和解へと人々を招く責務が残ります。

しかしもし、あなたが嵐の中で、地上の日々に別れを告げていたならば、今度はあなたが語りかけられ番です。主はあなたにきっとこのように語りかけてくださることでしょう。

「よくやった。わたしの良い忠実なしもべ。……主人の喜びをともに喜んでくれ。」(マタイの福音書25章21節)

「すべての営みには定まった時期があり、天の下すべての働きには時がある。」(伝道者の書3章1節)

今、世界は再び揺れています。100年前と同じように、大国の指導者たちが核のボタンに手をかける時代に、私たちは生きています。イエス様はこう言われました。

「その日、その時は、だれも知りません。……ですから、目を覚ましていなさい。」(マタイの福音書24章36節、42節)

これは、終わりの「時」がわからないからこそ、目を覚まし、その日のために備えをせよ、という命令です。

では、私たちは何を備えるのでしょうか? 逃げる準備? 物資の備蓄? 今を楽しむ? ——いいえ、福音を語るための備えです。

イエス様はこう語られました。

「この御国の福音は、あらゆる国の人々に対して証しとして全世界に宣べ伝えられ、それから終わりが来ます。」(マタイの福音書24章14節)

終わりは、すべての人が福音を聞いた後に訪れます。では、その「すべての人」に、誰が福音を宣べ伝えるのでしょうか? ——私たちです。

個人伝道訓練13週クリニック

zoom

EEJapan

COFFEE

「わたしについて来なさい。人をとる漁師に就けよう。」(マルコ1:17)

2025年秋期コース生徒募集中

2025. 9/1(月)～12/1(月) (全13課) 毎週月曜日 10:00～12:00

キャンペーン中につき9/1の授業(導入課)のみ、どなたも無料で視聴頂けます。ぜひご参加ください。

受講費 16,000円 (教材費・事務手続き費込み)

お申し込みはこちらから

info@eejapan.com 090-2038-1634 (事務局)

Information インフォメーション

① 秋期オンライン13週クリニック(9月1日~12月1日)

9月1日はオリエンテーションです。どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせは、info@eejapan.comまで。

② EE Japan オフィシャルウェブサイト オープン!

EE Japanの公式ウェブサイトが公開されました。ぜひご覧ください。<https://www.eejapan.com>

③ 証しブックレット『我限りなき愛をもて』発売!

EE Japan代表・山中知義師の証しブックレット、『我限りなき愛をもて／救いの日からEEとの出会いまで』が出版されました。価格：300円(税込) EEの紹介にも活用できますので、ぜひ買い求めください。

④ 毎週水曜日 20:30~ EEの祈り会【Zoom】

EE Japan 理事長・高橋裕子師を中心に、Zoomで祈り会が開かれています。どなたでもご参加いただけますので、ぜひご参加ください。

● Zoom ミーティング情報:

ID: 883 9235 5160

パスコード: 771672

<https://us02web.zoom.us/j/88392355160?pwd=MGozWVd2YjZkL3BSWGJPZTJRZWQ0Zz09>

祈りの課題

● EEの働きの発展のために

- EEの働きを通して、一人でも多くの方が福音を伝える備えをし、伝道者として用いられるように。
- 伝道者を育成する指導者が、一人でも多く起こされるように。
- EEクリニック受講生たちが、良きOJT(実地訓練)体験が出来るように。また「天与の出会い」体験をするように。
- EEの働きを通して、教会の未来を担う献身者が各地に起こされるように。

● 現在進行中・今後の取り組みのために

- 現在進行中の13週クリニック受講者たちのOJT活動が祝福され、多くの人々に福音が届くように。
- 9月1日から始まる「秋期EE13週クリニック」が祝福され、一人でも多くの伝道者が整えられますように。
- EE Japanの代表・山中知義師の証しブックレット『我限りなき愛をもて』、リニューアルしたHPが(www.eejapan.com) 祝福されよく用いられますように。

● EEJapanの組織とリーダーシップのために

- EE Japanが、健全で持続可能な組織として成長しますように。
- EE Japanの指導者たちが、祈りをあらゆる活動より最優先する霊性を常に維持できるように。
- EE Japanの働きに必要な財政と人材が主の豊かな御手によって満たされるように。
- EE Japanと国際本部との関係が良好で健全なものでありますように。

● 報告

- ① 2025年6月23日から25日にかけて、「伝道力を養う」をテーマに開催された日本長老教会国内宣教研修会に、メインスピーカーとしてお招きいただきました。3回にわたるセッションでは、個人伝道が持つインパクトについて、代表・山中の証しを交えながらお話しさせていただきました。

最終日には、おゆみ野教会の出立先生による講演も行われ、教会現場で個人伝道トレーニングを積極的に導入しておられる実践報告がなされ、大きな励ましとなりました。

- ② このたび、EE Japanの働きを霊的に支える評議員として、新たに以下の4名の先生方が就任されました(五十音順・敬称略)
 姫井雅夫牧師(日本総動員伝道代表・伝道団体連絡協議会前代表)
 杉山敏毅牧師(大阪教霊会館)
 韓 正美(ハン・ジョンミ)宣教師(Japan Evangelical Mission)
 木崎智之牧師(岡山ホープセンター・ティーンチャレンジジャパン ナショナルディレクター)
 それぞれの先生方は、福音宣教の第一線で豊かな実績と信仰的リーダーシップを持っておられます。今後、EE Japanの

ビジョン実現において、祈りと助言をもって大きな支えとなってくださることを心より期待しております。どうぞ皆様もお祈りに覚えてください。

発行: EE Japan 代表者: 山中知義 編集責任者: 山中智子(編集長)
 発行日: 2025年8月11日(夏号) / 発行頻度: 季刊(春号・夏号・冬号)

〈編集・発行所〉EE Japan 事務局

〒616-8163 京都市右京区太秦西峰岡町27-10 TEL.090-2038-1634

E-mail: info@eejapan.org / ホームページ: www.eejapan.com

印刷・製本・レイアウト: (宗) ニューライフ・ミニストリーズ 新生宣教団

〈献金振込先〉

- 銀行名: 京都銀行 帷子ノ辻(カタビラノツジ)支店
 口座番号: 普通 3699909
 名義: 一般社団法人エバンゲリズムエクスプロージョンジャパン
- 銀行名: ゆうちょ銀行
 振替口座 00960-8-195432
 名義: 日本爆発伝道協会
 (同封の用紙をお使いください。手数料は無料です)